

香川の夏、 海岸線を西へ。

紫雲出山山頂からは、瀬戸内海の2つの表情を楽しめる。東側には遠く諸島が浮かぶ。

瀬戸の都・高松から西へ約60キロ。

庄内半島の中ほどにある

紫雲出山からの景色が面白い。

半島の東側を見ると、

瀬戸内海らしい多島美が広がる。

一方、西側に視線を移すと、

ほとんど島影がなく、

まるで湖のようにも見える。

この静かな海は燧灘。

驚くほど豊かな漁場であり、

沿岸には独自の文化が根付く。

日本で有数のイリコ（煮干し）の

産地であり、6月から9月の最盛期は

さながらイリコの海となる。

海も街も活気づく夏、

燧灘の魅力を訪ね、西の海を旅する。

浦島太郎の半島へ。

浦島伝説が残る庄内半島。
不思議な物語が生まれた地は、
時に別世界のような風景を見せる。

古くは日本書紀や万葉集にも記される「浦島伝説」。その発祥とされる地は日本全国に広がっているが、有力な候補が三豊市の庄内半島である。その地名には、太郎が生まれた「生里」、玉手箱を開けた「箱」、玉手箱から出た紫の煙が雲になってなびいた「紫雲出山」、若さを失わない太郎が暮らした「不老浜（室浜）」など、縁のある言葉があちこちに残っている。浦島伝説のロマンと重ね合わせて、海と自然が織りなす美しい景観を楽しみたい。

この庄内半島のほぼ真ん中に位置するのが紫雲出山。頂上の展望台からは、半島をぐるりと見渡すことができる。半島の東側に目をやると、塩飽諸島の島々が浮かび、瀬戸内らしい多島美が迫る。一方、西側に広がるのは燧灘。島影は少なく、広い海が広島側まで続く。多島美で知られる瀬戸内海の、もうひとつの表情である。燧灘が特に美しいのは夕刻。夏の夕日に染まる赤い海は、水面が鏡のようにキラキラと輝き、幻想的な雰囲気になる。

燧灘の魅力をもっと近くで体験するならシーカヤックがある。

ゆっくり自分のペースで進みながら、海とひとつになる時間。無人島（鳥島）に渡り、地元の食材を使ってアウトドアランチを作る。1日コースや、午後からの半日コース、夏季限定のサンセットコースなど、旅のスケジュールに合わせて楽しめる。



前日までに予約して楽しむシーカヤック。海とひとつになって燧灘を楽しめる。



夕刻は、燧灘が美しく輝く時間。今日の最後の光を照らした海が鏡のように反射する。



松原の中に現れる「寛永通宝」をかたどった巨大な砂絵。一夜で造ったとの伝説が残る。



いろいろな湯が屋外にある「琴弾廻廊」。景色を楽しみながら湯の道比べられる。



ユニークな形の松を探す楽しみも。



砂紋は、波と風が織りなす自然の芸術。上を歩くのがためられる繊細な模様が続く。

砂浜に魅力あり。



遠浅の海岸に白い砂浜が続く有明浜。手前に林立する松との調和が美しく、干潮時には波が描いた砂紋が広がる。



地引き網で実感する瀬戸内の恵み

観音寺市の花猫海岸では、地引き網体験ができる。地引き網は、漁船で設置した網の両端を浜から引いていく伝統漁法。30分ほどかけて浜まで引き上げると、網の中で元気よく魚が跳ねる。季節により捕れるチヌやスズキなどは、もちろん参加者のお土産になる。20名以上の予約で5月から9月まで体験可能。

【問い合わせ】
花猫地区地曳網実行委員会事務局
TEL0875-52-3015(高橋モータース)

浜からろ過して引き入れた潮風呂など、いくつもの湯を堪能できる。海に突き出た立地により、テラスの目の前はすべて瀬戸内海。ここから眺める夕景はことに贅沢である。

また松林の中央には、寛永通宝をかたどった巨大な砂絵がある。その大きさは、東西122m南北90m。楕円形になっているのは、琴弾山山頂の展望台から眺めた際に、きれいな円形に見せるためである。日没から午後10時までライトアップされており、昼間とは違う圧倒的な存在感を放つ。有明浜の西南端に場所を移すと、日帰りの天然温泉施設「琴弾廻廊」がある。燧灘の景色を眺めながら入浴する屋外の「野天風呂」が自慢で、日本古来のサウナ・釜風呂や、有明

燧灘は遠浅で知られ、三豊市から観音寺市にかけて多くの砂浜がある。そのうち、日本の渚百選に選ばれているのが、財田川の河口から北へ約2kmに渡って広がる有明浜。浜のすぐ東側にある標高58mの琴弾山から有明浜に続く一帯が、名勝「琴弾公園」として整備されており、生い茂る松林と白い砂浜、瀬戸内海のコントラストが美しい。

砂浜で力強く成長する松は、ユニークな形のものがあり、その造形を観察するだけでも面白い。根の部分が地上に露出した世にも珍しい「根上がり松」もある。地上高く四方八方に伸びた根は生き物の足のように見え、想像が膨らむ。

限られた季節や時間にだけ
渡れる島がある。
普段は海に閉ざされた島が
好奇心を刺激する。



時のある島。

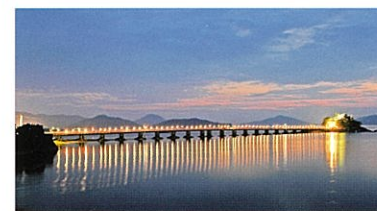
丸山島

荘内半島の浦島伝説のひとつに数えられているのが丸山島である。鴨之越海岸の沖にある無人島で、干潮時にだけ島へと続く道が現れて、歩いて渡ることができる。この不思議な光景が、竜宮城のイメージに繋がったのかもしれない。



葛島

荘内半島の西側の付け根にある葛島は、大小2つの島からなる無人島。4月から10月の間だけ渡船が運航している。船に揺られる時間は7分。あっといふ間のトリップである。海水浴場やキャンプ場があり、夏は多くの人でにぎわう。



津嶋神社

1年のうち、たった2日間だけ渡ることができるのが、小さな無人島に奉られている津嶋神社である。子供の健康と成長の守り神とされ、毎年8月4日・5日の夏季大祭の時に、島への渡り橋が架けられる。早朝から夜遅くまで、子どもの健康を願う人がひっきりなしに橋を渡っていく。

日本一営業日数の少ない駅

津嶋神社の夏季大祭の期間だけ利用できるJR予讃線の「津島ノ宮駅」は、年間の営業が2日間という幻の駅。当日は、津嶋神社へ向かう人だけでなく、全国から集まる鉄道ファンでにぎわう。



イリコ飯

燧灘は、日本で屈指のカタクチイワシの漁場である。イワシは水揚げ後、すぐに釜ゆでし、乾燥してイリコに加工される。このイリコを使った郷土料理が「イリコ飯」である。頭とはらわたを除いたイリコを季節の野菜と一緒に具材にした炊き込みご飯で、手早くできるおもてなし料理として重宝されてきた。

たこ判

「たこ判」は、旅の途中のおやつにぴったりのB級グルメ。大判焼(今川焼)の焼き型で作る大きなたこ焼で、1個120円から。キャベツの甘みとソースの香りが、郷愁を呼び起こす。全国に同様のものがあるが、三豊市が発祥の地といわれる。



四季の魚と夏場のイリコ。
豊かな漁場を目の前にして、
地域だけの食文化が生まれた。

潮風の味。

伊吹島のイリコ

燧灘でも伊吹島のイリコは有名で「伊吹いりこ」の名前で全国に知られている。原料となるカタクチイワシは鮮度が落ちやすく、いかに早く加工できるかが味の決め手となる。伊吹島は漁場の真ん中にあり、持ち込まれたイワシをすぐさま加工できるため、品質が高い。



さつま

天然のいけすといわれる燧灘の沿岸には、独特の郷土料理が生まれている。タイやチヌなどで作る三豊市の「さつま」もそのひとつである。タイやチヌを骨付きのまま焼いて身をほぐし、焼いた白味噌と合わせてすりつぶす。そこにシイタケなどを加え、残ったアラでとっただしで薄めてご飯にのせ、ミカンの皮を薬味にして食べる。ミカンも味噌も地元の産物。井に土地の恵みを詰め込んだ一杯だ。